

管理運営の方針

現在、2015年の国連サミットで採択されたSDGsを国際的な開発の指針として、2030年のゴールに向けてさまざまな取り組みがなされています。ふくしま海洋科学館は、このSDGsの前進であるMDGs（ミレニアム開発目標）が採択された2000年に、このゴール7「環境の持続的可能性確保」に合致する「海を通して人と地球の未来を考える」を基本理念として開館しました。当館は、開館以来23年間にわたり、この理念のもと、環境水族館として、山、川、海の世界を再現した展示と体験学習の場を提供してまいりました。残念なことに、日本の2022年のSDGsの達成度では、17の目標のうち、環境に関する「13：気候変動に具体的な対策を」「14：海の豊かさを守ろう」「15：陸の豊かさを守ろう」が、いずれも主要な課題が残る赤の達成度になっています。ふくしま海洋科学館の管理運営に当たりましては、次の3つの方針のもと、県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興、ひいては持続可能な社会の実現に尽力してまいります。

① 子ども達の未来を開く水族館

生物多様性の減少、地球温暖化、海洋汚染など地球環境は悪化の一途をたどり、我々人間の生活にも悪影響が出ています。現在の新型コロナウイルス感染もその一つと言えます。これらの問題を打開し、明るい未来への道を開くのは、未来を担う子どもたちが、希望に満ち溢れた未来を創造し、英知を集結して環境保全に取り組むしかありません。当館では、子どもたちの明るい未来の創造を支援し、豊かな海、豊かな地球を守るための新たな展示や体験活動を展開してまいります。

② 唯一無二の水族館

当館では、開館当初から、本県の目前に広がる潮目の海、さらには潮目を作る親潮と黒潮の源流域に生息する生物を、それらの生息する自然環境を忠実に再現した中で展示してきました。また、里山、里地の水辺、海岸などの環境を再現したジオトープを管理し、体験学習の場として提供するなど、世界的にも類を見ない展示を行ってまいりました。これらの取り組みは、日本経済社なんでもランキング「大人もときめく水族館」において第1位を獲得するなど、大きく評価いただいているところです。これら館内外での環境展示をさらに充実させるとともに、開館当初より調査研究を続けてきたシーラカンスをはじめ、当館でしか見ることのできない生物の種類数を増やすなど、展示生物の独自性を強めてまいります。

③ 地域と共に歩む水族館

ふくしま海洋科学館の入館者数は、東日本大震災とその後の風評被害により、震災前の90万人から50万人台に減少しました。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年連続30万人台にまで落ち込むなど、指定管理業務は非常に厳しい局面に立たされています。この状況を好転させるには、指定管理者だけではなく、同様に苦境に陥っている多くの業種の方々と地域全体で具体的な手段を模索する必要があります。地域と共に考え、共に歩み、地域全体を活性化することで、この局面の打開を目指します。